



第 86 号

【冬号】令和5年1月1日

発行・臨済宗 大徳寺塔頭 玉林院

〈創建当時の院号、正琳院より〉

玉兔千年寿



月岑宗印和尚四百年遠忌記念茶会
玉林院 覚え書き
南明庵 樂焼敷瓦について(三)

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年も、子どもに関連する報道を目にすることが多かったと思います。私の祖父である先々代住職の泰堂和尚は、昭和三十年に京都市からの要請を受けて玉林院内に保育園を設立しました。生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて大切な時期の子どもの受け入れの重要性を感じたからです。

世界の、特に北欧諸国では保育者の社会的地位は高いものです。幼児教育は、幼児の内面に働き掛け、一人一人の持つ良さや可能性を見いだし、その芽を伸ばすことをねらいとするため、『見えない教育』とも言われ、高い保育スキルが要求されるからです。

なぜ日本は未だに「保育は育児をしたことがある人ならば誰でもできるものである」という認識なのでしょう。今一度、幼児教育の重要性を世の中全体で考え直し、子どもたちにとって希望のある未来を作り上げていく必要があるのではないかと切に感じております。

玉林院住職 森 玉雲

新春呈茶のおしらせ

呈茶の用意をしております。檀信徒様のお越しをお待ち申し上げます。

一月一、二、三日
午後一時から四時まで
玉林院客殿(本堂)にて

[年回表] 令和5年

壺	周	忌	令和	四	年
参	回	忌	令和	三	年
七	回	忌	平成	二	十九年
十三	回	忌	平成	二	十三年
十七	回	忌	平成	十	九年
二十三	回	忌	平成	十	三年
二十五	回	忌	平成	十	一年
二十七	回	忌	平成	九	年
三十三	回	忌	平成	三	年
三十七	回	忌	昭和	六	十二年
五十	回	忌	昭和	四	十九年
百	回	忌	大正	十	三年

行事 お知らせ

各行事にお出まし下さいますようご案内申し上げます。

●印 玉林院関係 ◆印 福祉関係

- 1月1日(祝)~3日(火) ● 玉林院 新春記帳受付
- 新春呈茶(本堂 東の部屋) (午後1時~4時)
- 2月15日(水) ● 涅槃会法要(本山 仏殿)
- 2月28日(火) ● 利休忌
- 3月21日(祝) ● 春の彼岸法要 ※詳細は、2月末頃お知らせ予定

- 本山出頭
1月1、2、3、8、9、10、15、16、17、18、21、22日
- 各寺院開祖忌参列 総見院、大光院、大仙院
- 檀信徒月参り
- 玉林院月釜 7日(1月のみ17日)・16日・28日
- ◆ 子育てステーション「お遊び会」(毎月第2、4水曜日 午前10時~11時30分)
- ◆ 「たつこのおもちゃライブラリー」
「お茶を楽しみます」(寺にて) (毎月第2土曜日 午後3時~)

玉林院月釜のご案内

1月の月釜

常楽会) 16、17日の2日間-寺
洞雲会) 当日は、三千元です。
(濃茶、薄茶の二席となります)

玉林会(28日)-和田純子様

2月の月釜

常楽会(7日)-北風宗照様
洞雲会(16日)-吉田常茗様
玉林会(28日)-高見俊一様

3月の月釜

常楽会(7日)-休 会
洞雲会(16日)-(未定)
玉林会(28日)-大島多恵子様

※令和5年1月16日より会員章(回数券)を発行いたします。
1万5千円で12回分となります。
※各会(常楽会・洞雲会・玉林会)共通の会員章になります。

※事前予約制です。

玉林院
めぐり



【表紙：山茶花(さざんか)】
[撮影：玉林院各所]
禅語：玉兔千年の寿
読み方：玉 兔 千 年 の 寿
ぎよく と せん ねん じゅ

意味：玉兔は月に住む兔のこと。千年は永遠という意味。
月に住む兔は永遠の寿命をもつという信仰にもとづく禅語。

去年は、秋になっても猛暑が続き、熱射病を避けるために部屋での遊びを強いられました。それを挽回するが如く、寒さが厳しくなった今も外遊びを元気いっぱい楽しんでいます。今回は、そんな子ども達が大好きな園庭での遊びを紹介します。

日なみ・月なみ ほいくえんの四季



藤袴の花が咲きました。南の海を渡って蜜を吸いにきた「あさぎまだらちょう」。



園庭には、土管と石で作った「岩山」があります。果敢によじ登る子ども達です。



「虫だ！虫だ！何の虫だ！」
わんぱくっ子は騒ぎ。



おみごと「うんてん」
ビュウン、ビュウンと渡ります。

8月 ★夏野菜収穫（暑さで収穫は少なかったです。）

★プール遊び

★讃州寺 地蔵盆・保育園地蔵盆
（子ども達の手作り提灯を飾りました。）

★平和を願う集い
先生「この頃、悲しいことがいっぱい」
子ども「そりゃコロナや」
「ウクライナやな～せんそうや」
子ども達は、世の中のことをよ～く見えています。

9月 ★「元気まつり」（運動会）
（親子で、玉入れ、かけっこを楽しみました。）

10月 ★保育園 だるま忌
（子ども達が、作っただるまを園内に飾りました。）

★秋の収穫（サツマイモ、柿、かぼちゃ、ゆず、
干し柿も作りました。）

11月 ★大徳寺 開山忌（本山 法堂）
（年長さんがお詣りしました。）
★玉林院 道了大権現祭・お火焚き
（大門を入れて左側のお堂に祭られています。
道了さんは玉林院の守り神です。）

12月 ★保育園 成道会（「お釈迦さまの一生」を子ども達が演じました。）
★陶芸（年長さんが抹茶茶碗に絵を描きました。）

お知らせ

1月 鏡開き
作品展



2月 わくわく発表会
節分
涅槃会
ミニコンサート（ホルン演奏）



毎月第2、第4水曜日10時～11時半
子育てステーション「お遊び会」
保育士と未就園児さんが遊ぶ会です。
保護者同伴でどなたでも参加できます。
電話でお申し込みください。〈無料〉

3月 12日(金) 卒園お別れ遠足（滋賀の清泉寺に推草、ツクシ採りに。
在園児進級遠足
卒園式（お参りやお茶の時間を過ごした本堂で行います。）

月岑宗印和尚四百年遠忌記念茶会



令和四年十月二十九日、三十日に玉林院開祖 月岑宗印和尚四百年遠忌記念茶会が皆様のご支援賜り無事に行われました。茶会に参加されました田中様に寄稿いただきましたので、ご紹介します

遠忌記念茶会に参加して

秋色日頃深まる中、遠忌記念茶会が行われ、謹んで参加いたしました。全国各地より四百名の方々がご参集され、全六席からなる茶会は好天に恵まれる中、ご盛会でございました。

まず、濃茶席は玉林院さま自らが担当でした。玉林院本堂の室中（仏間）に開祖月岑和尚の頂相や墨跡が掛けられ、白の糸菊、茶菓がお供えされていました。本堂の古材を用いた松台子に南鐮の利休型皆具が飾られて、荘重な雰囲気です。袴姿の男性陣が全てのお客に天目台で濃茶を呈され、その後、席主である玉雲和尚の和やかなお話しがあり、お茶席を楽しませていただきました。

玉林会の先生方が席を設けてくださっていました。三席とも趣向を凝らされており、記念茶会に相応しいお道具とおもてなしに感動いたしました。

展示されていた。伺ったところ、館長の谷見先生のご配慮により、玉林院とご縁のあった松平不昧公愛蔵のお道具をご用意くださったとのことでした。展観席の後には南明庵の樂長入以来の敷瓦、そして今回、樂直入さまが補足されたという新しい敷瓦を拝見いたしました。点心席は、大徳寺御用達の二久製の縁高にお吸い物もございました。一献とお祝いのご配慮でした。今回、各お席には予め定められた組ごとに案内の方に誘



濃茶席

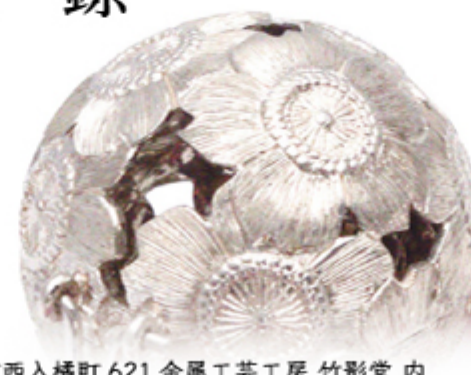
◎広告デザイン企画制作 ◎印刷
◎名刺 ◎茶会案内、会記
◎DM、チラシ ◎パンフレット

ジグラット
Zigurat

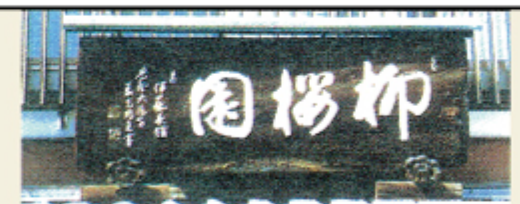
〒601-8364
京都市南区吉祥院石原南町29
TEL・FAX 075-634-8473
zig-1@mbox.kyoto-inet.or.jp

かざりや 鐙

銀細工・金属工芸品
注文制作・修理等



京都市中京区押小路通麩屋町西入橋町621 金属工芸工房 竹影堂 内
営業時間 10時-18時 土日祝10時-17時 年末年始休
☎ 075-231-3658 HP <http://www.ryo-kazariya.com/>



各御家元御用

柳桜園茶舗

京都市中京区二条通御幸町西
Tel.075-231-3693 Fax.075-231-2118

(地方発送承ります) (定休日:日曜日)



展観席



薄茶席 洞雲会

導いただいたのですが、驚いたことに全ての席で待ち時間はありませんでした。お茶会に参加して玉林院と紡がれた茶の湯との歴史を感じ、その歴史の二ページに立ち会ったような気持ちになりました。開祖様の



京都工芸繊維大学の松田剛佐先生による敷瓦説明



薄茶席 常楽会

御威徳に感謝するとともに、玉林院の関係の方々が流派を超えて心を込めてご接待くださいましたことに心満たされて、大徳寺を後にいたしました。



薄茶席 玉林会

玉林院茶の湯 護持会からのご報告

収益は、遠忌記念事業である文化財修理事業に充てさせていただきます。
重要文化財である高麗仏画「釈迦如来像」は現在、京都国立博物館で修復中です。修復完了後にお披露目を計画しております。
同じく重要文化財である南明庵の「赤樂の敷瓦」は、今回の茶会でもお披露目させていただきました。皆様のご支援に御礼申し上げます。

良質な建築を通して「人と地球の未来」に貢献致します。

株式会社 京都空間研究所

Architects & SpaceLab-Kyoto

代表取締役所長 松木 一恭

604-0033 京都市中京区御池通西洞院東入橋之町741-3
イトーピア上田御池ビル

tel : 075 - 221 - 0565 web : <http://spacelab-kyoto.com>

若 株式会社 石吉

吉村石材店は、令和3年10月14日付けで社名を「株式会社 石吉」に改称いたしましたのでお知らせ申し上げます。

〒603-8222 京都市北区紫野下築山町71番地

TEL・FAX 075-414-6073

URL <http://kyoto-ishiyoshi.com>

MAIL info@kyoto-ishiyoshi.com

大谷造園

〒616-8405 京都市右京区北嵯峨名古曾町10-6

TEL FAX 075-861-1539

・携帯 090-6558-0859

南明庵 樂焼敷瓦について(一)

樂焼 十五代 樂 直入

【南明庵及び茶室(蓑庵・霞床席)】
南明庵は玉林院方丈の北側の庵。その両側に「蓑庵」(さあん)、「霞床席」(かすみじ)の茶室を有します。寛保二年(一七四二)、玉林院八世大龍和尚の折、大阪の豪商、鴻池了瑛の帰依により、鴻池の祖、山中鹿之介の位牌堂として建立。昭和五十四年(一九七九)に大幅な解体修理が行われました。



【十五代樂直入プロフィール】
昭和五十六年(一九八一)、十五代吉左衛門を襲名。令和元年(二〇一九)、樂家当主を長男に譲る。
樂家は、桃山時代に初代長次郎が千利休の指導の下、茶碗を制作したのが始まり。ろくろを使わず、手と篋(ち)だけで形を整える「手づくね」が特徴。伝統に根差すとともに、斬新な造形美を表現し続けている。



補修前の様子 2018年撮影

大徳寺塔頭・玉林院は慶長八年に創建されたが、その後火災にあい片桐且元らによって慶長十四年に再建され今に至る。本堂には狩野探幽はじめ狩野派一門の絵画など重要美術を見ることができ、中でも茶の湯に関わる者にとっては、なんとと言っても茶室蓑庵と霞床を持つ四畳半の茶室である。

寛保二年、鴻池了瑛が先祖である山中鹿之介を祀るため建立した南明庵から西にむかって霞床席、蓑庵と続く軒下基壇の部分には、樂家七代長入の焼いた赤樂の敷瓦が引き詰められている。寛保二年(一七四二)南明庵創建の時であろうから、瓦が敷かれてからすでに二八〇年は経っている。軒下とはいえ風雨にさらされる所、また人が歩く所であるから、当然のこ

しょうりん
協賛掲載募集中

●詳しくは、玉林院寺務所まで
TEL 075-491-8818 FAX 075-491-3232

書附・千家十職・茶道具販売
全国各種道具 査定・買受いたします

茶道具 あいき

千茶市中央区富士見2-22-6
電話 043-224-3964

信楽・樂入陶房

Kochu Ann
楽焼

〒529-1851 滋賀県甲賀市信楽町長野703
TEL 0748-82-1133 FAX 0748-82-3233
<https://www.shigaraki-kochuan.com>

とながら経年とともに破損も進む。角縁が欠け、釉薬の表面も摺り減り土がむき出しとなるものも多く、それを樂家の歴代が補修し今日につなげてきた。七代長入以後、九代了入、十代旦入、十二代慶入、と敷瓦の裏には作者の名前が彫銘されている。近代になって二つの大きな戦争もあり、なかなか修復が進まなかったようである。

もとより大徳寺塔頭と樂家は代々深い親交があり、十代旦入は玉林院十三世拙叟宗益和尚から、また十一代慶入は黄梅院十四世大綱宗彦和尚からそれぞれ樂之字を賜り印としている。当代吉左衛門は襲名に当たり高田明浦老大師から「樂」字を、私は「直入」の隠居号を戴いた。永年の人の縁がそこにある。

父覚入が玉林院先代ご住職より敷瓦修復の依頼を受けたが、残念ながらその時間がなかったようで、永年の約束を果たせないままこの世を去った。現代の平均寿命からすればいささか早い享年六十一歳であった。おそらく、私に代を譲り隠居の身になって、ご用命に報いるつもりであったにちがいない。

そのようにして、玉林院様と樂家との代々の御縁を私が引き継ぐことになったが、なかなか御約束を果たせず年月ばかりが過ぎ、その間

にもますます玉林院の敷瓦の風化は進んだ。私も二〇一九年に長男に代を譲り隠居の身となったが、それもすでに三年余りが経過し、ようやくこのほど敷瓦の補修事業を始めることができるようになった。

樂家にご存知のように弟子を取らぬ家である。茶碗は作り手そのもの、人格そのものであつて、職人による分業仕事では茶碗はできぬ。ただ、下働きと呼ぶ手伝いの者はどうしても必要となる。粉塵で頭から真っ白になり土の塊を臼で砕き篩いにかける。燃料である炭の大きさを整える炭割りでは鼻の中が真っ黒になる。私が使用している土は十二代弘入が見つけ保存してくれたもの。そのほかに惺入、覚入が見つけ保存した土もある。当然私が見

つけた土も保管されている。それを土小屋の臼で終日土を突き篩いに掛け、削り残土と共に練り合わせる。「土は我々の命だ」とは覚入の口癖であつた。土を砕き、炭を作る、これらさまざまな下働きをこなすことは一人ではできない。しかしそのすべての工程を私は襲名以来たった二人でこなしてきた。いつ頃からであつたらうか、それを見かねた親しい知人がある時期から週に三日ほど下働きに来てくれる。彼らは私より一歳上、本職は京象嵌の名工で昨年経済産業省から「現代の名工」の表彰を受けた。象嵌の分野で初めてだと思う。私が永年玉林院様からのご依頼を果たせなかつたのは、こうした樂家の事情が少なからずあつた。

(つづく)



土小屋、土や貴船石を臼で粉碎する

新年のあいさつ

令和五年 正月

水無月窯

藤谷芳哉

京都市北区鷹峯光悦町十六-1
☎075-495-3567

京菓子司

紫野源水

京都市北区北大路新町下ル
☎075-451-8857

兵庫県芦屋市

塩川哲郎

大徳寺保育園

たつのおもちや
ライブラリー

檀家総代会一同

玉林院護持会

◆◆玉林院永代供養◆◆

永代供養を受け承ります。

ご家族に代わり将来にわたり
御供養いたします。

詳しいことは、玉林院までご連絡ください。

電話 075-491-8818



玉林院 永代供養塔

玉林院日單

「日單」とは、禪宗寺院の日記のこと

●印：玉林院関係
★印：保育園関係
◆印：福祉関係

- 8月25日 ●★讚州寺地藏盆
- 9月6日 ●江岑宗左追善茶会（大徳寺山内）
- 23日 ●秋の彼岸法要
- 24日 ●★保育園「元氣まつり」（運動会）
- 10月3日 ●龍翔寺入寺式
- 5日 ●達磨忌法要（大用庵）
- 29・30日 ●玉林院開祖四百年遠忌記念茶会
- 11月21日 ●大徳寺開山忌宿忌
- 22日 ●

- 開山忌・開祖忌参列（龍翔寺、如意庵、龍光院、聚光院）
- 大徳寺本山出頭
 - 八月一、十二、十五、二十一、二十二日
 - 九月一、十五、十六、二十一、二十二日
 - 十月一、十五、二十一、二十二日
 - 十一月一、十、十一、十五日
- 檀信徒月参り（御希望の方は、お寺までお申し出ください。）
- 月釜（毎月7日、16日、28日）
- ◆たつのご茶会（毎月第二土曜日。）

玉林院での仏式結婚式

紅葉美しい十一月後半の吉日。玉林院で仏式結婚式が行われました。白無垢が映え、まるで庭のモミジも、新しい門出を祝っているようでした。披露宴では、大徳寺一久の精進料理が振る舞われ、新郎新婦の思いが詰まった幸せいっぱい結婚式でした。



青年仏教講

第二十回 黄檗宗(一)

一六五五年、崇福寺に移り住んだ隠元隆琦の元に、龍溪性潜が懇請に來ました。懇願を受けた隠元は、同年に普門寺に晋山しました。隠元が日本に滞在する期間は三年の約束でした。中国から何度も帰国要請があったため、隠元は帰る決意をします。日本に隠元が留まって欲しい龍溪らは、一六五八年に江戸幕府四代將軍・徳川家綱と謁見の場を設け、その結果一六六〇年に、山城国宇治郡大和（現、京都府宇治市黄檗）に寺地を賜りました。翌年には故郷の寺院と同名の黄檗山萬福寺を開創しました。現在も本山として中国風の建物や仏像が有り、日本の一般的な仏教寺院とは異なった景観であります。また、普茶料理も有名です。今回は、黄檗宗の教えについて考えていきます。

玉雲 合掌

- ※一：龍溪性潜（一六〇二—一六七〇）京都の出身。摂津国の普門寺で出家し、第九代住持。妙心寺の住持に就いた後、再び普門寺に戻る。隠元が来日後、黄檗宗の開宗に尽力。一六六九年、日本人初の隠元の嗣法者となる。
- ※二：普門寺は大阪府高槻市富田町にある臨済宗妙心寺派の寺院。隠元が住持したのち、黄檗宗に改宗。一六六一年頃、隠元が萬福寺に、龍溪も自らが再興した慶瑞寺へと移り、再び臨済宗妙心寺派に復帰した。
- ※三：普茶料理は隠元が伝えた中国式の精進料理。葛と植物油を多く使った濃厚な味。

ご奉仕御礼

8月～12月 ご奉仕頂いた方

（順不同）（奉仕月順）

- お彼岸受付＝石吉様、大谷造園様
- 遠忌記念茶会＝各月釜の先生方、大勢のお茶人様、信徒様、「楽しむ会」「七楽会」の皆さん
- 『しょうりん』発送＝「楽しむ会」の皆さん、神林陽子様
- 「健康のための庭掃除の会」の皆さん

編集後記

▼四百人をお招きしての遠忌記念茶会なのであれこれ心配していましたが、皆様のご協力で滞りなく会を終えることができました。茶会のお客様もご奉仕くださった方も大変喜んでくださったことに安堵しています。口数の少ない先々の洞雲和尚は行事や茶会の後、「喜んでもらわんとあかんのや」とつぶやいていたことを思い出します。仏教のことも、禅のことも未だおぼろげな私ですが、洞雲和尚のこの言葉を大切に心に刻んで生活していきたいと思っております。

（雅）

▼歩くことが楽しくなった一歳半の息子と散歩に出かけようとした時のことです。おぼつかない足取りの息子がお地蔵さまの前でピタリと止まり、手合わせ深々とお辞儀をしているではありませんか。近いことを良いことにお地蔵さまの前を通らず裏口から保育園に直行していたのに、息子はいつのまに覚えたのでしょうか。合掌する姿はまさしくわらべ地蔵でした。

（穂）

「しょうりん」第八十六号

発行日 二〇二三年一月一日

発行 大徳寺塔頭 玉林院

〒六〇三三八二二二

京都市北区紫野

大徳寺町七四

電話 〇七五・四九一・八八一八

FAX 〇七五・四九一・三三三二